

第 7 回全国在宅医療会議ワーキンググループにおける主な意見

(在宅医療に関わる関係者のへの普及・啓発について (在宅医療関連講師人材養成事業))

- 地域において既に在宅医療の講師が豊富にいるエリアもあれば、講師が欠けているエリアがあって、二次医療圏や市町村でもかなり差がある。不足しているところを狙って開講していったほうが効果的であると考えます。
- この研修を受けた方が地元で講師となり、どんどん活躍して在宅医療に目覚めたり、これから在宅医療に取り組む人が出てくるというのがアウトカムだと思う。

(国民への在宅医療に関する普及・啓発について)

- リーフレットの中では十分に書き切れないが、最低限必要な情報もある。できれば、さらに詳しいところまでいかななくても、次の段階ぐらまでは何か考えていただきたい。
- 地域医療計画に該当する在宅医療をやっている具体的な場所などが都道府県しかわからないという現実がある。それぞれ地方と国と役割分担をして、具体的な重なりになっていくと、もっと進むのではないかという気がする。
- 地域包括ケアは御当地システムですから、この 1 枚だけで全国で通用するかというと、なかなか難しい。そのへんの使い方をぜひ医療機関に説明の上、配布いただければありがたいと思う。
- カスタマイズできるということであるが、どこまでできるかを明確にしておいたほうがよい。
- 何か自分のことだと思えるような、表面にそういうものがあつたほうがいいのではないか。

(在宅医療に関する医療連携モデルの構築について)

- 今回のモデル構築の中に、歯科診療所との連携という項目がなく、その実態がなかなかわからない。どういう実態があつて、どこが不足しているのかという部分がないような気がする。調査項目については、今後、検討いただきたい。